

12 つくる責任  
つかう責任



## SDGs —世界を変えるための17の目標—

### No.12 つくる責任 つかう責任 ~日本の自動車リサイクル制度~

“つくる責任 つかう責任”の中には、2030年までにごみが出ることを防いだり、リサイクル・リユースをしておごみの発生量を大きく減らすという目標があります。

自動車業界もこの目標を達成する上で大きな役割を担っています。

皆様はクルマのリサイクル率をご存知でしょうか？

**現在、クルマのリサイクル率はなんと約96%なんです！！**（2020年度実績）

Cf. 自動車リサイクル促進センター <https://www.iarc.or.jp/automobile/effort/>



そこで...

2005年に自動車リサイクル法が施行!

#### — リサイクル制度ができた背景 —

かつて日本では、使用済みになった車の不法投棄、シュレッダーダストの処理に要する土地不足等が問題になっていました。この問題を改善するために、現在のリサイクル制度が2005年より適応されました。自動車の産業界が一体となって部品や部材の再利用に努めています。

#### ・クルマのリサイクル料金って…？

新車を購入された際、諸費用の中に「リサイクル料金」という項目を目にしたことはないでしょうか？

リサイクル料金とはその名の通り、クルマのリサイクルに係る費用です。

クルマの部品を適正に処理するためや自動車リサイクルシステムを運営するために使われます。

#### ・今までの成果



スズキの本社前

自動車の産業界全体での取り組みの結果、使用済みの自動車はほとんどがリサイクルされています！

スズキでは、使用済みとなった小型リチウムイオン電池をソーラー街灯用電源にリユースする技術を開発しました。

廃車1.0台分の電池を、1基のソーラー街灯の電源としてリユースすることができます！

各自動車メーカーでは、リサイクルしやすいクルマ造りを心がけています。

今後も、スズキ株式会社は

持続的な社会に貢献する取り組みを進めてまいります！

